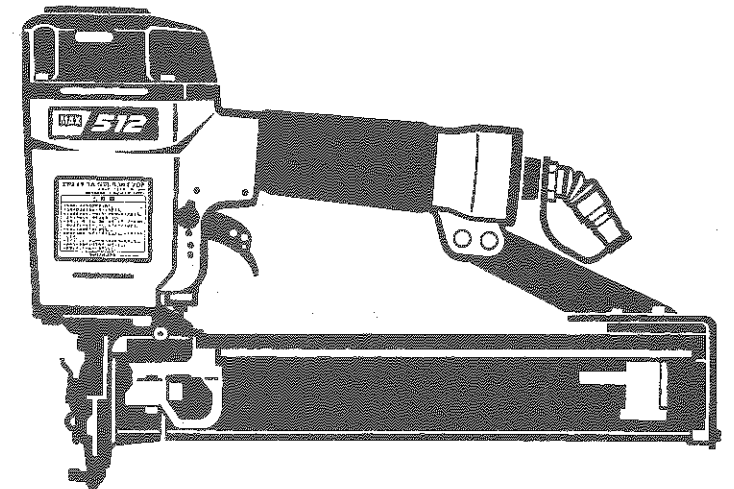
本社・営業本部	〒103 中央区日本橋箱崎町6－6	TEL(03)3669-8121(代)
東京支店	〒103 中央区日本橋箱崎町6－6	TEL(03)3669-8118(代)
札幌店	〒060 札幌市中央区大通り東6－12－8	TEL(011)261-7141(代)
仙台店	〒983 仙台市若林区卸町東2－1－29	TEL(022)236-4121(代)
名古屋支店	〒461 名古屋市東区徳川1－11－23	TEL(052)935-8531(代)
大阪支店	〒553 大阪市福島区玉川1－3－18	TEL(06)444－2031(代)
広島店	〒733 広島市西区南観音7－11－24	TEL(082)291-6331(代)
福岡支店	〒812 福岡市博多区上牟田1－5－1	TEL(092)411-5416(代)
盛岡営業所	〒020 盛岡市仙北町下野18－1	TEL(0196)35-5575(代)
多摩営業所	〒187 小平市小川町2－1253	TEL(0423)44-6268(代)
宇都宮営業所	〒321 宇都宮市簗瀬町字榎内2313	TEL(0286)36-3012
南九州営業所	〒891-01 鹿児島市上福元町2578－1サンアベニュー1F	TEL(0992)69-5347
新潟マックス(株)	〒955 三条市東裏館2－14－28	TEL(0256)34-2112(代)
茨城マックス(株)	〒310 水戸市松ヶ丘2－3－27	TEL(0292)55-3761(代)
つくば営業所	〒305 つくば市天久保2－21－3	TEL(0298)52-8838
群馬マックス(株)	〒379-22 佐波郡赤堀町大字今井543－2	TEL(0270)62-1123(代)
埼玉マックス(株)	〒331 大宮市日進町3－421	TEL(048)651-5341(代)
千葉マックス(株)	〒284 四街道市大日1870－1	TEL(043)422-7400(代)
横浜マックス(株)	〒241 横浜市旭区さちが丘7－6	TEL(045)364-5661(代)
長野マックス(株)	〒390 松本市笹部1－6－25	TEL(0263)26-4377(代)
長野営業所	〒381-22 長野市青木島1－35－1	TEL(0262)85-6740(代)
静岡マッマス(株)	〒422 静岡市敷地1－3－26	TEL(054)237-6116(代)
金沢マックス(株)	〒921 金沢市森戸2－15	TEL(0762)40-1871(代)
富山営業所	〒930 富山市上飯野字樋向割10-8	TEL(0764)52-0182(代)
福井営業所	〒910 福井市和田東2－1711	TEL(0776)27-3378(代)
岐阜マックス(株)	〒500 岐阜市北一色4－3－5	TEL(0582)47-6121(代)
京滋マックス(株)	〒612 京都府京都市伏見区竹田段ノ川原町9	TEL(075)645-5061(代)
兵庫マックス(株)	〒673-04 三木市大村高柳109－1	TEL(07948)3-2121(代)
岡山マッマス(株)	〒702 岡山市福富中1－6－14	TEL(086)264-9581(代)
四国マックス(株)	〒760 高松市上天神町761－3	TEL(0878)66-5599
徳島営業所	〒770 徳島市末広2－1－17	TEL(0886)23-0286(代)
松山営業所	〒790 松山市市坪北1－17－1	TEL(0899)58-4031(代)
マックスサービス(株)本社	〒330 埼玉県大宮市宮原町2－99－5	TEL(048)667-6448(代)
マックスサービス(株)大阪	〒533 大阪市福島区玉川1－3－18	TEL(06)446－0815
マックスサービス(株)名古屋	〒461 名古屋市東区徳川1－11－23	TEL(052)935-8210
マックスサービス(株)福岡	〒812 福岡市博多区上牟田1－5－1	TEL(092)451-6430
マックスサービス(株)広島	〒733 広島市西区南観音7－11－24	TEL(082)291-5670
マックスサービス(株)仙台	〒983 仙台市若林区卸町東2－1－29	TEL(022)237-0778(代)
マックスサービス(株)札幌	〒060 札幌市中央区大通東6－12－8	TEL(011)231－6487

●マックスお客様ご相談ダイヤル(無料) 0120-22-8358
月～金曜日 午前9時～午後6時

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。

G9501

マックス釘打機エアネイラ
TA-512/938Tフロア
取扱説明書

⚠ 警告

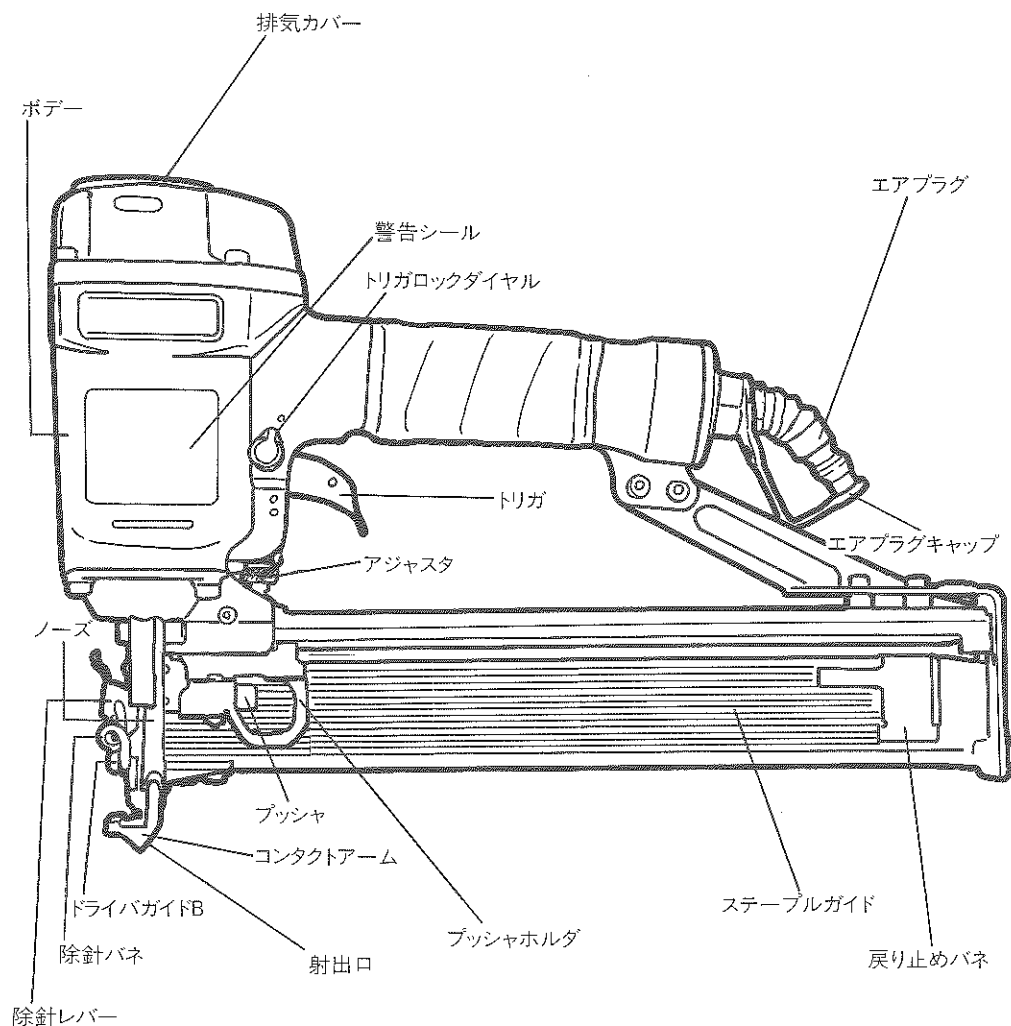
- ●使用前に必ず取扱説明書を読む。
- ●使用の際は必ず保護メガネを着用する。
- ●安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。
- ●使用しない時、また、調整・修理・ステープル装塡の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。
- ●射出口を絶対に人体に向けない。
- ●移動する際は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。
- ●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。
- ●揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。
- ●異常を感じたら絶対に使用しない。

●この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。
●本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

⚠警告：この表示は記載事項に従わないと人身事故につながる可能性がある場合を示します。

目　次

1 各部の名称

2 ⚠ 警告
安全作業のために

本機は木質フローリング、木材、またはそれに類した材料にステープルを打ち込むことを目的とした空気工具です。指定以外の用途、使用方法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

作業前

❶使用の際は必ず保護メガネを着用する。

ステープル打ち作業をする時、排気エアにより粉塵が舞い上ったり万一打ち損じのステープルがはね返り、眼に入ると危険です。作業する本人はもとより付近の人も必ず保護メガネを着用してください。

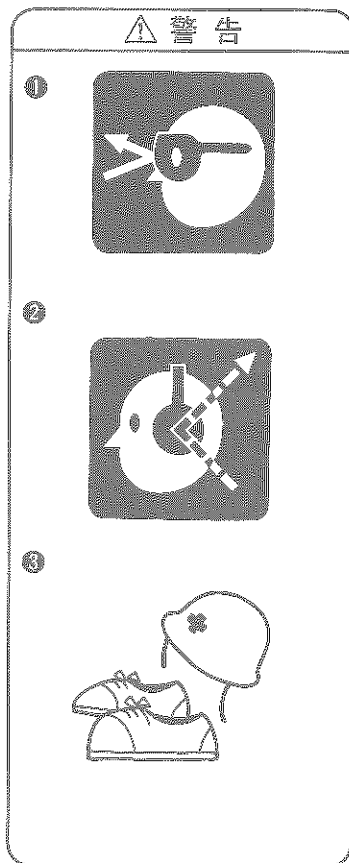
❷防音保護具を着用する。

ステープル打ち作業をする時、排気音や排気エアから耳を守るため、作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を着用してください。

❸作業環境に応じた防具を着用する。

作業環境に応じてヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。

⚠ 警告

2 ⚠ 警告
安全作業のために

❹エアホース接続前に必ず点検する。

エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。

1. ネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
2. 各部部品が外れていたり、傷んでいないか。
3. コンタクトアームがスムーズに動くか。（確認のしかた11ページ参照）
4. トリガをロック（引けないように固定）できるか。（11ページ参照）

不完全なまま使うと、事故や破損の原因となります。異常のある場合は、お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱へ点検・修理に出してください。

❺エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

本機はエアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、エアコンプレッサ以外は絶対に使用しないでください。

❻エアホース接続の時には必ず厳守する。

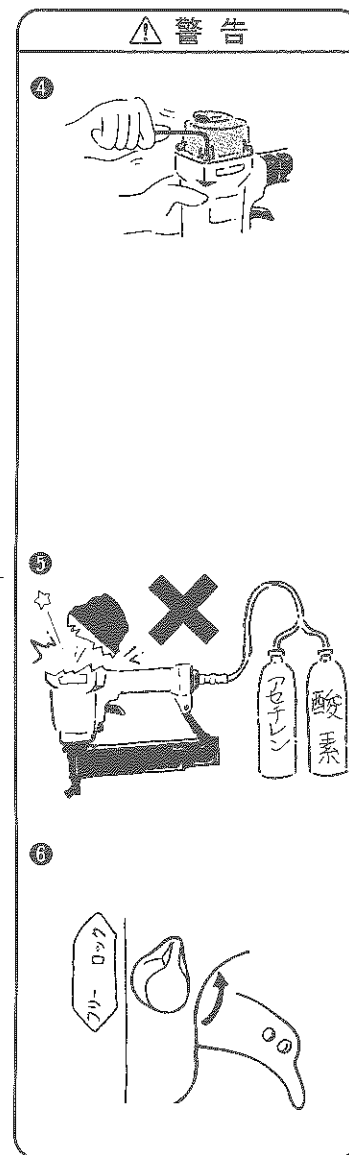
エアホースを接続するときは誤って作動させないよう下記のことを必ず守ってください。

1. トリガをロック（引けないよう固定）する。
2. コンタクトアームに触れない。
3. コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
4. 射出口を人体に向けない。

⚠ 警告

❹

❺

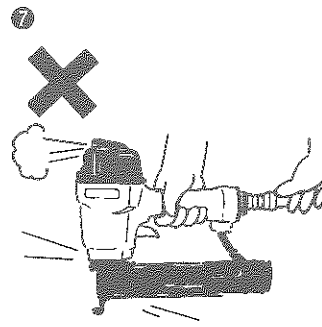
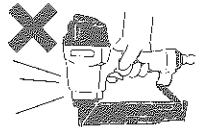
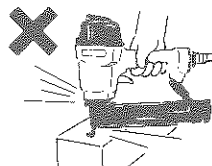
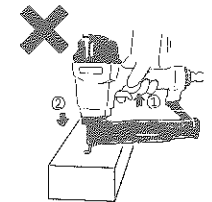
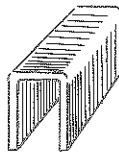
❻

2 ⚠警告 安全作業のために

❼エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはステープルを装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

1.エアホースを接続しただけで作動音がしないか。

2.エアもれや異常音がしないか。

エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がする場合は故障しています。そのまま使うと事故の原因となりますので、絶対に使用しないでください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

❽安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。ステープルを装填しないでエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットして確認してください。(11ページ参照)

※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

1.トリガを引いただけで、作動音がする。

2.コンタクトアームを対象物に当てただけで、作動音がする。

3.トリガを引いてからコンタクトアームを対象物に当てる順序で作動音がする。

異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

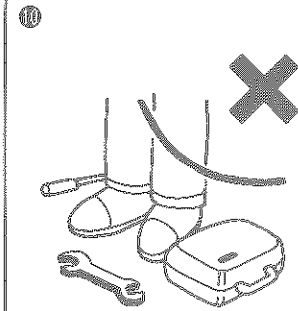
❾指定ステープルを必ず使用する。

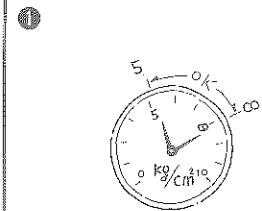
指定されたステープルと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のステープルをご使用ください。

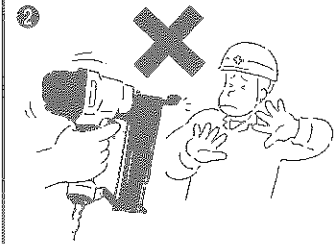
2 ⚠警告 安全作業のために

❿作業場所を常に整理する。

作業場所が乱雑だとつまづくなどして思わぬ事故の原因となります。作業場所は常に整理整頓をして安定した姿勢で作業を行ってください。

作業中

❶使用空気圧を必ず守る。

本機の使用空気圧範囲は5~8kgf/㎠(0.49MPa~0.78MPa)です。対象物によりその範囲内で調整し使用してください。8kgf/㎠(0.78MPa)を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

❷射出口を絶対に人体に向けない。

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですからさけてください。同時に打ち損じたステープルが人に当たらないよう作業中は付近の人に注意をはらってください。

❸射出口を確実に対象物に当てる。

射出口を確実に対象物に当てないと、一度打ったステープルや木の節などに当たった場合ステープルがはねたり、それたりして大変危険です。また、本機が強く反発することもあり危険ですから、射出口を確実に対象物に当ててください。

❹揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

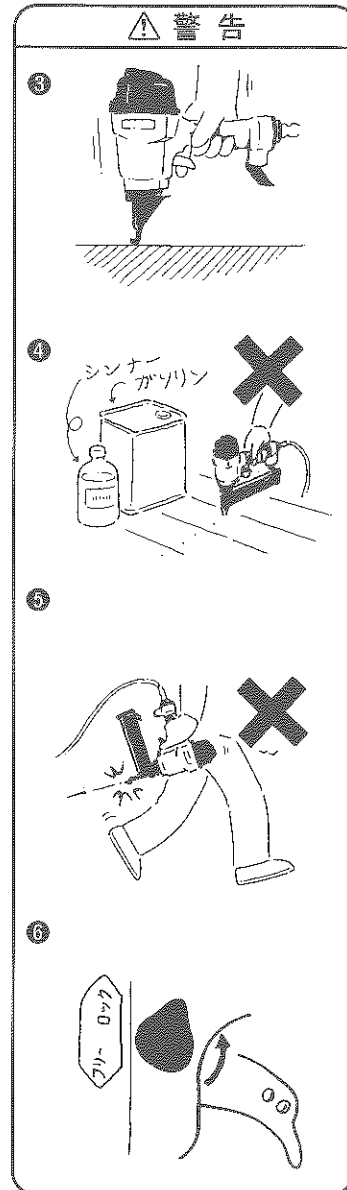
本機やエアコンプレッサを揮発性可燃物（例：シンナー、ガソリン等）のそばで使うとステープル打込時の火花による引火や、空気といっしょに吸入圧縮され、爆発の危険を伴いますので、揮発性可燃物のそばでは絶対に使用しないでください。

❺移動する際は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

エアホースを接続した状態でトリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。移動する際はトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

❻作業中断時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

作業中のステープル装填、調整及びステープルづまりを直すときは誤ってステープルを発射すると危険ですから、必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

2 ⚠警告
安全作業のために

❼異常を感じたら絶対に使用しない。

作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

作業後

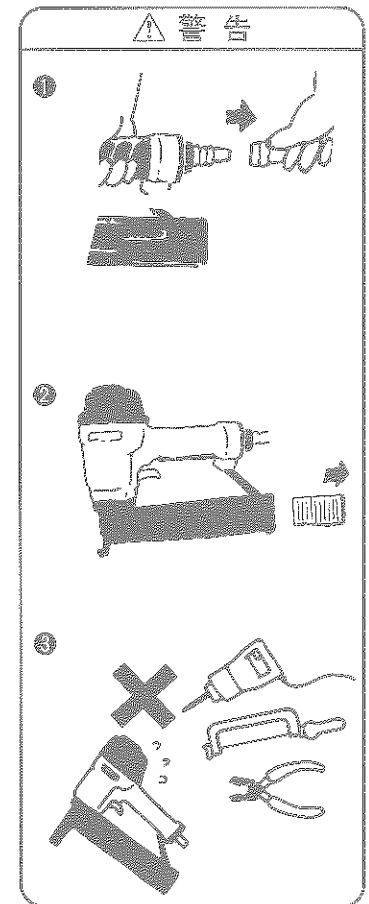
❶作業終了時には必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

作業終了時には、必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

❷作業終了時には必ずステープルを抜き取る。

ステープルをステープルガイド部に残しておくと、次に使用するときうっかり手を触れたり、誤って作動させた場合、思わぬ事故につながることがあります。作業終了時には必ずステープルガイド部のステープルを抜きとってください。

❸本機を絶対に改造しない。

本機を改造すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

⚠ 警 告
安全作業のために

屋外作業について

❶足場の安全性を充分に確認する。

足場を使っての高所作業の場合、ステープル打ち作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。

❷エアホースの確保。

高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに必ず固定箇所を作ってください。これは不用意にホースが引っぱられたり、引っかかったりしたときの危険を防ぐためです。また、ホースのたるみやねじれのないように注意してください。

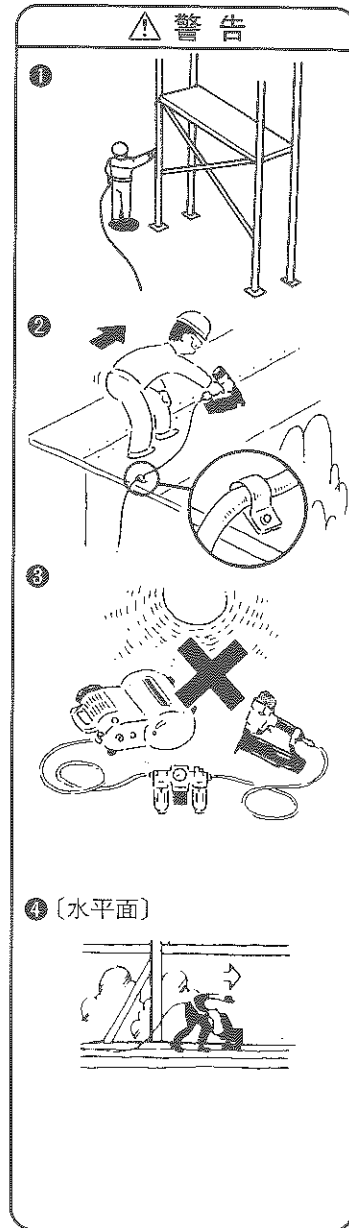
❸直射日光をさける。

本機やエアセット、エアコンプレッサは直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。また、エアコンプレッサはできるだけ日陰に設置して使用してください。

打ち方

❹水平面のステープル打ち

前進姿勢でステープル打ち作業を行ってください。安全で疲労が少なく、正確で速い作業ができます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。

⚠ 警 告
安全作業のために

❺垂直面のステープル打ち

本機を手の届く最も高いところまで差し上げ、上から順に下へステープル打ち作業を行ってください。疲労の少ない作業ができます。

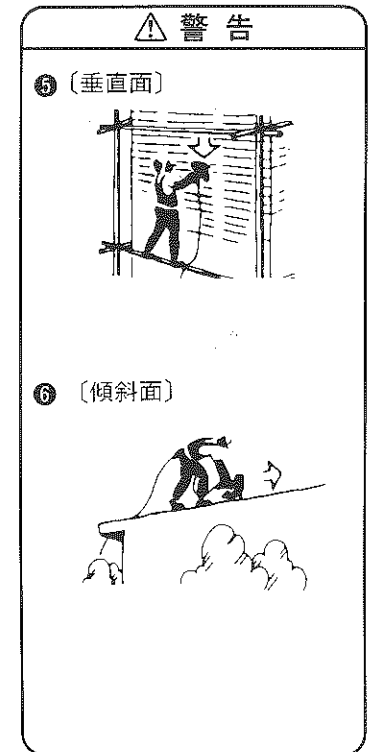
※内、外壁の同時打ちは絶対にしないでください。

❻傾斜面のステープル打ち

下から上に向かって前進姿勢でステープル打ち作業を行ってください。上から下に後退すると足を踏みはずす危険があります。

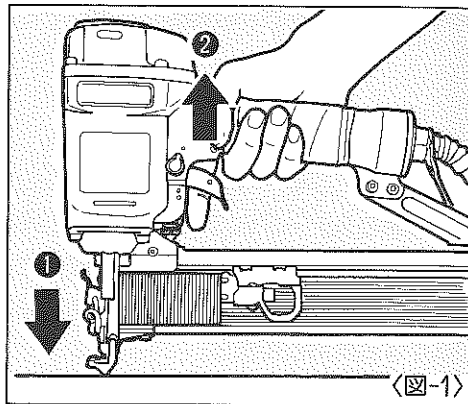
⚠ 警 告

❺〔垂直面〕

❻〔傾斜面〕

3 安全装置について

釘打作業の安全と仕上りの美しさを確保するため、本機には次のような安全装置がついています。

●メカニカル安全装置（DSバルブ）

これはコンタクトアーム、そしてトリガの順に作動させないとステープルを発射しないメカニズムです。つまりトリガを引いただけのときや、コンタクトアームを打込対象物に当てただけのとき、また、トリガ、コンタクトアームの順に作動させたときはステープルは発射しません。コンタクトアームを対象物に当ててからトリガを引いたときのみステープルは発射されます。〈図-1〉

〈図-1〉

⚠ 警告

●安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。ステープルを装填しないでエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットして確認してください。

※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

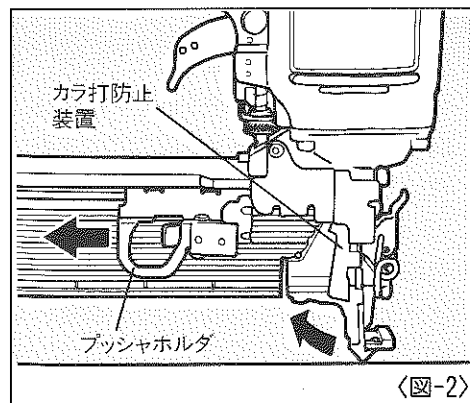
1.トリガを引いただけで、作動音がする。

2.コンタクトアームを打込対象物に当てただけで、作動音がする。

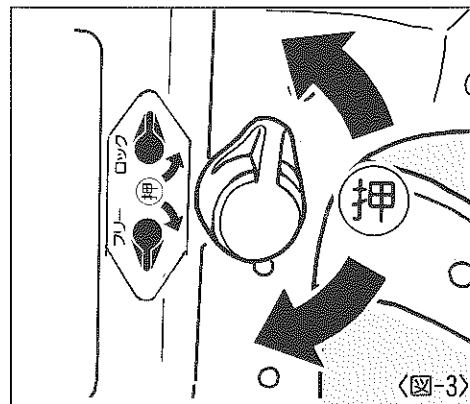
3.トリガを引いてからコンタクトアームを対象物に当てる順序で作動音がする。

異常のある場合はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

〔注意〕

本機は空打防止装置が装備されていますのでステープルを装填しない状態ではコンタクトアームは固定され動きません。安全装置の確認をする場合やコンタクトアームの動き具合を確認する場合はプッシャホルダをステープルガイド後方に引張り空打防止装置を解除しながら行ってください。

〈図-2〉

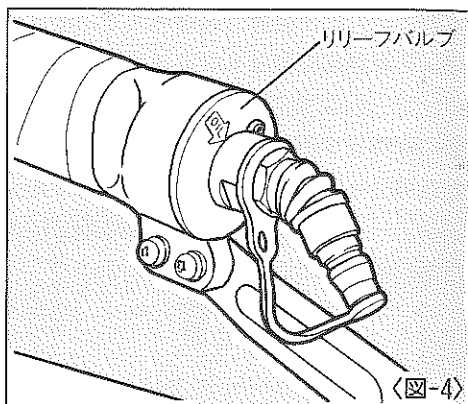
●トリガロック装置

本機にはより安全に作業していただくためにトリガロック装置を標準装備しています。トリガロック装置とは、作業しないときに本機の使用者の意志によってトリガをロック（引けないように固定）することにより作動できないようにすることができる装置です。〈図-3〉

〈図-3〉

ステープルを打っているとき以外はトリガロックダイヤルを押し回し、ロックの位置にセットしエアホースをはずしてください。作業を始める場合はトリガロックダイヤルを押し回しフリーの位置にセットしてください。

●リリーフバルブ

本機の使用空気圧範囲は5〜8kgf/㎠（0.49MPa〜0.78MPa）です。8kgf/㎠（0.78MPa）を超える圧力では使用しないでください。異常高圧で使用するとリリーフバルブより音を発し減圧します。その場合はただちに作業を中断し、エアホースをはずして打込圧力を再調整してください。また、エアコンプレッサ・空気経路を点検してください。なお、本機のリリーフバルブはボデー部後方本体に内蔵しています。〈図-4〉

〈図-4〉

4 仕様及び付属品

名称	マックス釘打機エアネイラ
製品記号	TA-512/938Tフロア
バルブ機構	ヘッドバルブ方式
ステープル送り機構	プッシャバネ送り
マガジン形式	後ろ入れ方式
寸法	（H）257×（W）84×（L）374mm
重量	2.15kg
使用ステープル	920T-SC，923T-SC，925T，928T，932T，935T，938T，938Tフロア
装填数	150本
使用空気圧範囲	5〜8kgf/㎠（0.49MPa〜0.78MPa）
使用ホース	内径7mm以上、長さ30m以内
使用オイル	タービン油1種ISO VG32（JIS1号90番）
安全装置	メカニカル方式、トリガロック装置、リリーフバルブ
付属品	保護メガネ、ジェットオイラ（油入）、6角棒スパナ3，4、アタッチメント

5 使用方法

使用前に本機とエアコンプレッサを接続しないで使い方を覚えてください。

【ステープルの装塡方法】

⚠警告

●ステープルを装塡するときは、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

手順

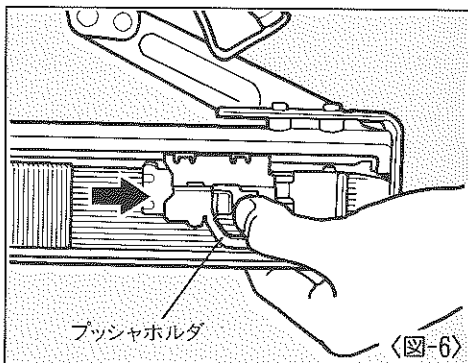
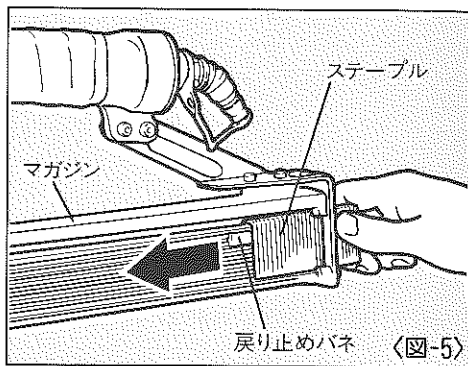
❶トリガをロックし、エアホースをはずします。

❷ステープルをマガジン後方から、戻り止めバネを超えるところまで入れます。 〈図-5〉

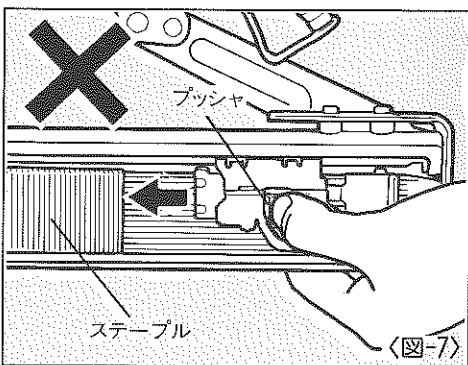
ステープルは最大3連（150本）まで入ります。

〈図-5〉

❸プッシャホルダをステープルガイド後端まで引っ張り、静かに戻します。〈図-6〉

〈図-6〉

〔注意〕

●プッシャホルダを戻す際、プッシャを押したまま行いますとステープルがセットされません。装塡はプッシャを押さずに行ってください。 〈図-7〉

〈図-7〉

〔注意〕

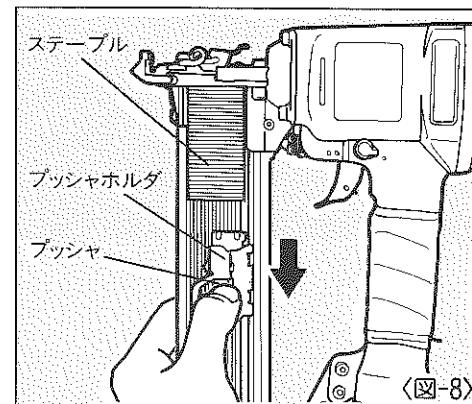
●プッシャホルダは急に放しますと、プッシャが急激に戻り、ステープルが変形したり、ばらばらになったりして、ステープルづまりの原因になります。プッシャホルダは必ず静かに戻してください。

【ステープルの抜き取り方法】

手順

❶トリガをロックし、エアホースをはずします。

❷ステープルガイド後端を下にして、プッシャホルダを少し引きながら、左右のプッシャを押し、ステープルを解放してください。 〈図-8〉

〈図-8〉

❸ステープルをマガジン後端より、抜き取ってください。

⚠警告

●作業終了時には必ずステープルを抜き取る。

【打ち方】

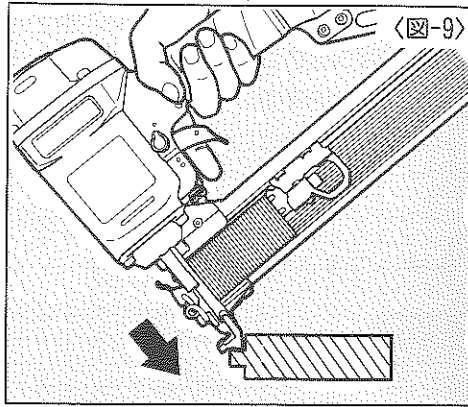
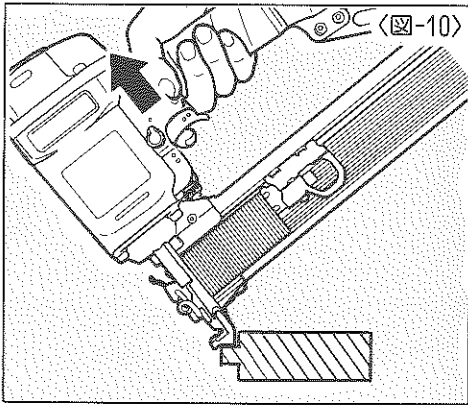
手順

❶ステープルを装填します。
❷エアホースを接続します。
❸トリガロックダイヤルをフリーの位置にセットします。
❹打とうとする箇所にコンタクトアームの先端を押し当てます。〈図-9〉

〈図-9〉

❺トリガを引きます。〈図-10〉

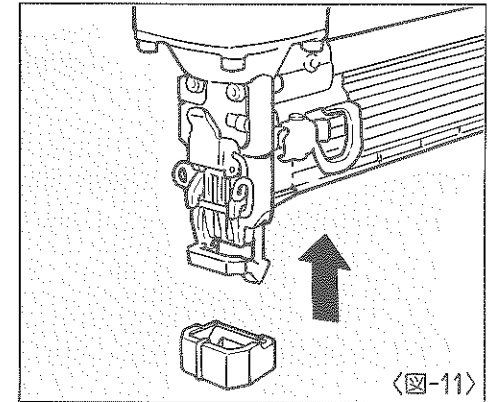
❻続けて打つ場合は❹❺の動作をくり返してください。

〈図-10〉

〔注意〕
本機には空打防止装置が装備されています。ステープルの残りが約 4 本以下になると打てなくなります。続けてお使いになる場合はステープルを補充してください。

【アタッチメントの使い方】

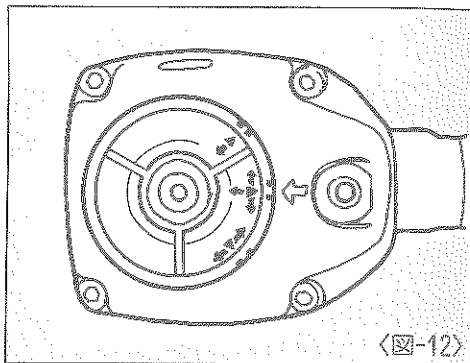
⚠ 警告
●アタッチメントの着脱は必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてから行う。

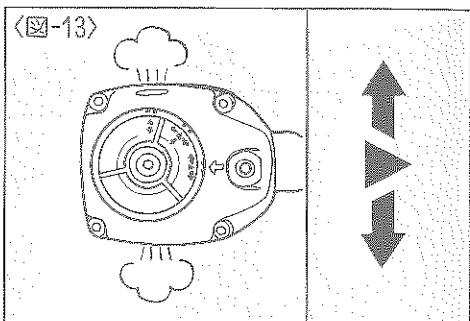
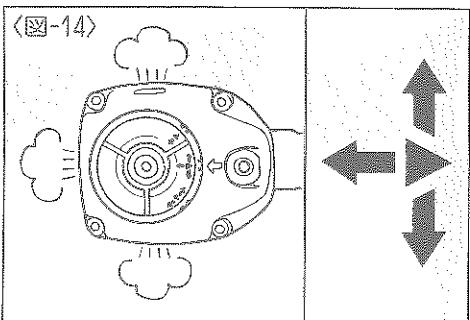
平打ちする場合、対象部材が柔らかくコンタクトアームを押し当てた時に傷をつける恐れがあるときは付属品のアタッチメントをコンタクトアームの先端に取付けてご使用ください。〈図-11〉

〈図-11〉

【排気方向の変え方】

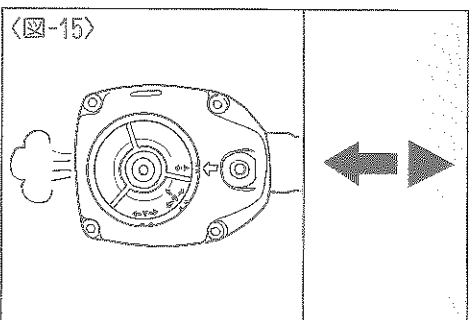
シリンダキャップ上部の排気カバーを手で回すことにより、本機は３つのタイプに排気方向を変えることができます。
上から見ますとシリンダキャップに矢印と排気カバーに３つの印がついています。

〈図-12〉

〈図-12〉

Ⓐ左右２方向から排気させたい場合〈図-13〉に合せます。

〈図-13〉

Ⓑ左右前３方向から排気させたい場合〈図-14〉の位置に合せます。

〈図-14〉

Ⓒ前１方向のみから排気させたい場合〈図-15〉の位置に合せます。

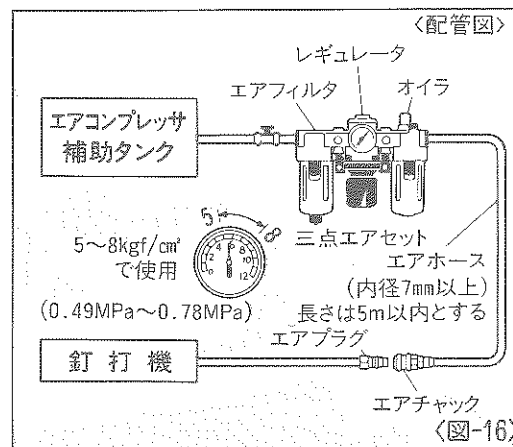
〈図-15〉

作業環境に合せてⒶ〜Ⓒを選んでご使用ください。

⚠警告
調整のときは必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

6 配管についての注意

⚠警告
●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

〈図-16〉

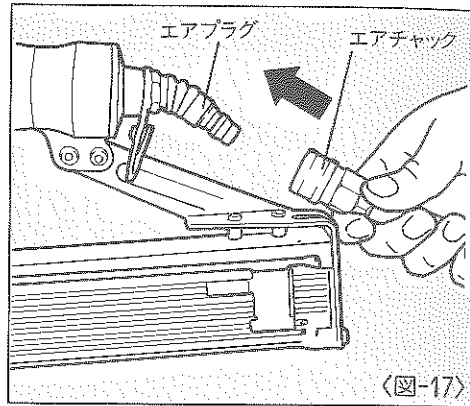
❶動力源は必ずエアコンプレッサをお使いください。高圧ガス(例：酸素、アセチレン等）は絶対に使わないでください。
❷３点エアセットはできるだけ本機１台に１セット取付けるようにしてください。
❸エアホースは内径７㎜以上、長さ30m以内でお使いください。

7 エアホースの接続

⚠警告
●エアホース接続の時は必ず厳守する。
エアホースを接続する時は誤って作動させないように下記のことを必ず守ってください。
1.トリガをロックする。
2.コンタクトアームに触れない。
3.コンタクトアームを押し上げた状態にしない。
4.射出口を人体に向けない。

手順

❶トリガをロックします。

❷エアプラグにエアホースのエアチャックを接続します。〈図-17〉

〈図-17〉

⚠警告

●作業中断時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

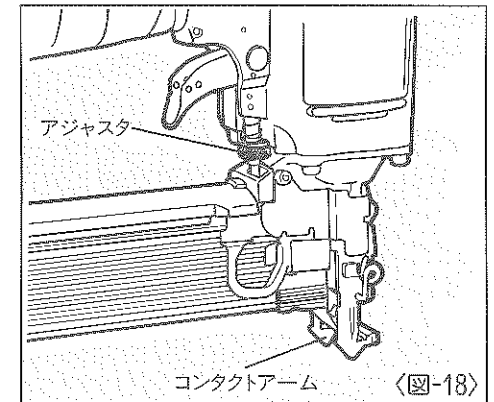
8 アジャスタの調整と打込状態の確認

本機には打込深さを調整できるアジャスタが装備されています。打込みすぎは極端に保持力が低下しますので作業の際には打込状態を確認して、アジャスタで深さを調整してください。〈図-18〉

⚠警告

●調整の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

〈図-18〉

手順

❶トリガをロックし、エアホースをはずします。

❷ステープルを装填します。

❸エアコンプレッサの圧力を6kgf/㎠にセットします。

❹本機にエアホースを接続しトリガロックダイヤルをフリーにセットします。

❺アジャスタの調整（ステープルの打込調整）の前に一度テスト打ちしてください。打込みたい深さを確認します。

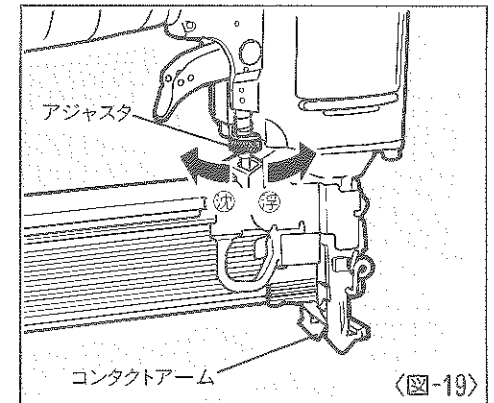
❻トリガをロックし、エアホースをはずします。

❼ステープルを取り出します。

❽アジャスタを回し調整します。〈図-19〉

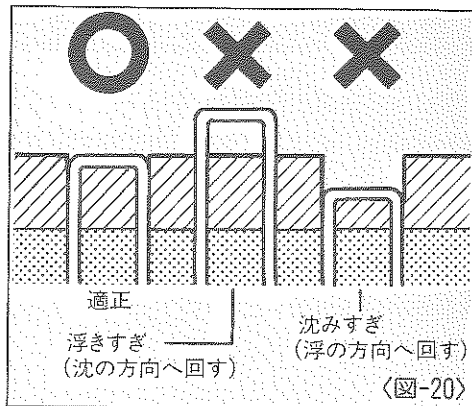
※アジャスタを１回転させると約１㎜上下します。

❾本機にステープルを装填します。

〈図-19〉

⑩エアホースを接続し、トリガロックダイヤルをフリーにセットしてさらにテスト打ちをして適正かどうか確認してください。〈図-20〉

⑪適正であれば調整完了です。不適正であれば以上の手順をくり返してください。

⑫適正状態が得られない場合はエアコンプレッサの空気圧を調整してください。

〈図-20〉

9 ステープルづまりの直し方

ステープルづまり時に除去を簡単に行えるよう、本機には除針装置がついています。

⚠警告

●ステープルづまりを直す時はトリガをロックし、エアホースをはずす。

手順

❶トリガをロックし、エアホースをはずします。

❷ステープルガイド部に残っているステープルを抜きとります。

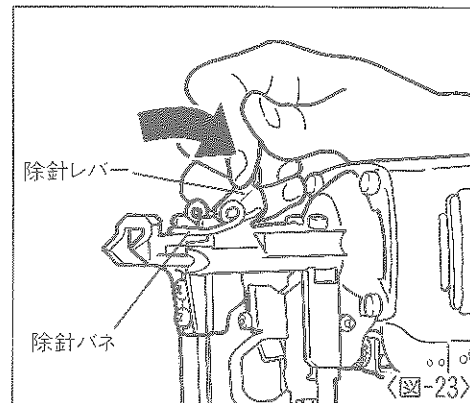
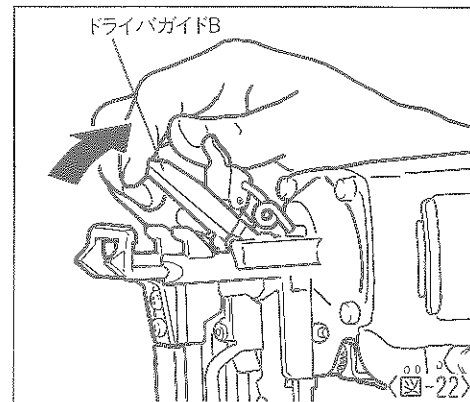
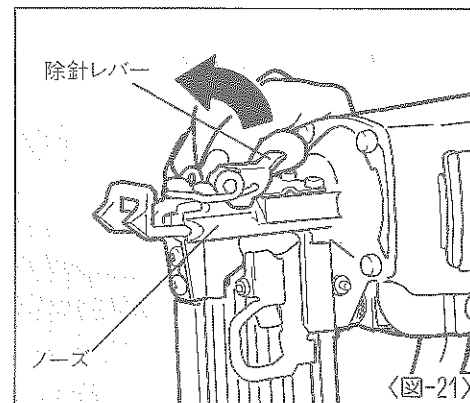
❸ノーズ前面にある除針レバーを手で引き上げます。〈図-21〉

❹ドライバガイドBを開き、つまったステープルを取り除きます。〈図-22〉

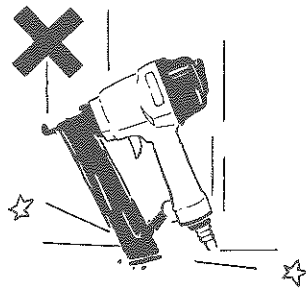
❺除釘バネをノーズの２つのつのに引っ掛け、除針レバーを押し戻します。〈図-23〉

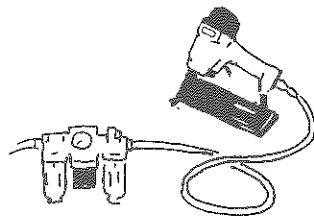
〈図-21〉

〈図-22〉

〈図-23〉

性能を維持するために

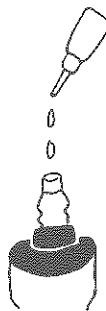
❶本機を大切に使う

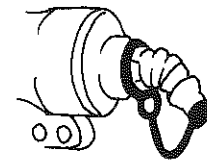
落したり、ぶつけたり、叩いたりしますと、変形、亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落したり、ぶつけたり、叩いたりしないでください。

❷エアセットを使用する

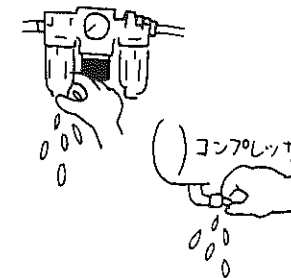
エアセットを使わないとエアコンプレッサ内の水分やゴミが本機内に入り、錆や摩耗が発生して作動不良の原因になります。なお、エアセットから本機までのエアホースは長すぎると圧力低下となりますので5m以内にしてください。

❸本機の水抜きをする

作業終了時エアプラグを下に向け十分水抜きしてください。

❹指定オイルを注油する

オイルはタービン油１種ISO VG32（JIS1号#90）を必ずお使いください。使用前使用後にエアプラグの口より2～3滴注油してください。指定外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。

❺エアプラグキャップの使用方法

本機を使用しないときには、機械内部にゴミなど入ると故障の原因となりますので、本機を使用しないときはエアプラグにキャップを装着してください。

❻エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタの水抜きをする

エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタに水がたまると能力低下や故障の原因となりますので定期的に水抜きをしてください。

❼定期的に点検する

本機の性能を維持するために清掃、点検を定期的に行ってください。点検はお買い求めの販売店又はマックスサービス㈱にお申しつけください。